



Japan Society of Internship
and Work Integrated Learning

日本インターンシップ学会 NEWS LETTER

2013 年度 NO.1

目次

- ・ 会長挨拶
- ・ 第 14 回大会を開催して
- ・ 第 15 回大会を開催するにあたって
- ・ 理事会報告
- ・ 2013 年度総会報告
- ・ 2012 年度事業報告及び決算報告
- ・ 2013 年度事業計画及び予算
- ・ 会則改正について
- ・ 年報編集委員会報告
- ・ 広報委員会報告
- ・ 2013 年度(第 7 回)高良記念研究助成対象者決定
- ・ 企画研究 WG 報告
- ・ 槇本記念賞 WG 報告
- ・ 2013-2014 年度役員について
- ・ 2013-2014 年度委員会構成について
- ・ 支部活動報告
(北海道支部、関東支部、関西支部、九州支部)
- ・ 事務局からのお知らせ
- ・ 会員情報

会長挨拶

このたび会長に再任され、また新たな気持ちで会員諸氏とともにインターンシップ研究を進めて参りたいと存じます。

4 年前の会長就任時に学会が目指す方向として宣言してきた「**学術と実践との往還のアゴラ**」が徐々に徐々に形をなしてきたように思います。ここで少しばかりその成果を振り返っておきたいと思います。

具体的な目標のひとつ<実践>的アプローチとして、組織の拡大・確立についてみると、会員数はこの数年で着実に増加しており、北海道、関東、関西、九州の各支部が、それぞれの特色を出しながら各地域での活動を展開するようになってきました。とはいえ、本学会の会員数は、インターンシップを実施している大学、短大、高専、専門学校、高校などの機関の数と比べてはるかに及びませんし、まだ学会支部活動が及ばない地域が多く残っています。地域の特色に応じたインターンシップの取組を点検・評価しその方向性を議論していくためにも、各支部中心に学会活動をより実践の現場に広げていくこと、また支部関係地域の外でも会員を募り、活動を広げていくことが大切であろうと考えています。

<学術>的アプローチについては、企画研究ワーキンググループを組織し、学会員が共同して企画実施する研究を奨励し、すでに複数の科研共同研究等が進められています。その共同研究を通して、インターンシップをより高次の教育理念に位置づけ、充実を図るために、職業統合的学習 (work integrated learning) コンセプトの重要性を確認し、今回の学会英語名称の変更に結びついてきました。さらに実践的な活動をいかに学術的な研究成果にまとめていくのかというテーマで年報編集委員会とともにワークショップを実施したところ、会員の関心も高く、内容的にも好評であったようです。こうした指向をさらに意識的に展開していくことで研究年報の充実につ

ながっていけばと期待しています。

第三の<アゴラ>的アプローチという点では、学術や実践にかかる会員相互の情報交換や、学会内外の対話の場となるべく、広報活動の充実を目指しており、NEWS LETTER も密度の濃いものになっていると思います。ただし、最新のコミュニケーションツールをいかに使いこなして個々の会員からの発信機能までふくめた充実という点では、まだまだ模索中です。引きつづき御協力ご支援をお願いしたいと存じます。

これまでの成果を踏まえて、これからの活動の焦点を探ってみると、とりわけ、2013 年 8 月に文部科学省から出された「**インターンシップの推進方策**」についての報告に言及しておくべきかと思います。大学における能動的学習 (アクティブ・ラーニング) の重要な方法論のひとつとしてインターンシップの量的拡大、質的充実を目指して、インターンシップ導入時の三省合意の見直しも視野に入れた政策の提起がされています。この議論には、本学会関係者が多数参画して報告や議論がなされています。大学生のインターンシップ経験の実体把握 (卒業までに 20%強が狭義のインターンシップを経験) の新たな提起、インターンシップと資格取得のための実習とを総合的に把握する見方 (職業統合的学習の提起等を含めて) など、これからいよいよ学会の学術的な成果を教育現場や政策での実践へと展開させる時が来ています。

これから、ぜひ皆さんと一緒に、インターンシップと職業統合的学習の把握・探究を進めていきましょう。

(会長 吉本 圭一・九州大学)

第 14 回大会を開催して

2013 年 9 月 7 日(土)・8 日(日)の日程で北海道武蔵女子短期大学において第 14 回大会を開催いたしました。参加いただきました 81 名のみなさまには、遠路札幌の地までお運びいただき心より感謝申し上げます。

さて、今大会のテーマは「体験の先へ行くインターンシップ—これからの広がりを考える—」とし、1日目の基調講演では北海道を代表するリゾートホテルを経営する鶴雅グループ代表大西 雅之氏にご登壇いただき「観光人材育成における阿寒の取り組み」と題してご講演いただきました。鶴雅グループにおけるインターンシップのみならず、大西社長の人材育成に関する熱い思いがフロアに伝わる感動的なお話を伺うことができました。次のシンポジウムでは、これからのインターンシップの広がりを考えるきっかけとして、札幌市経済局産業振興部産業課長の平野 誠氏、北海道札幌東商業高等学校教諭の藤田 和秀氏、小樽商科大学商学部社会情報学科准教授の大津 晶氏の3名をシンポジストとしてお迎えし、それぞれの取り組み事例をご紹介いただき、コーディネーターの亀野 淳会員の進行のもとに参加者全体で議論を深めました。また、高良記念研究助成報告につきましても、鈴木 恵会員より看護師のインターンシップについての研究発表が行われました。

2日目は自由研究発表で4会場21件の研究発表を展開し、各会場で熱心な研究発表が行われました。今大会では高良記念研究を含め10件が共同研究となっており、こうした共同研究の増加も、今後のインターンシップ研究の広がりにつながるのではないかと感じました。また、本年8月には「インターンシップの普及及び質的充実のための推進方策について意見のとりまとめ」が公表され、インターンシップを中心とする実践的・体験的な学習への注目が高まる中で、インターンシップに関する取り組みの幅を広げるという視点から議論を深めることができ有意義な2日間を送ることができたと思います。

なお、開催にあたりましては多くの方にお力添えを賜りました。実行委員会としての準備が不十分な中、みなさまのおかげで無事に大会を終えることができました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。最後になりますが、次回、北九州市立大学での第15回大会のさらなるご盛会を祈念し結びといたします。

(第14回大会実行委員長 高橋 秀幸・北海道武蔵女子短期大学)

第15回大会を開催するにあたって

平成26年の第15回大会を北九州市立大学にて開催させていただくことになりました。本学会の大会開催については4支部を持ち回りということになっており、次年度は九州支部内での開催ということになっていました。大会を開催するなどとは思ってもみませんでした。吉本 圭一会長からの要請も頂き、学内で検討した結果、お引き受けさせていただくことになりました。

本学は昭和21年に「小倉外事専門学校」としてその歴史をスタートしました。終戦の翌年に二度とこのような戦争を起こさないためにも海外の事情を学ぶ必要がある

という問題意識から、当時の陸軍北方駐屯地に隣接する場所に開校しました。商学部(現:経済学部)、文学部、法学部、国際環境工学部を相次いで設置、平成21年には地域創生学群を設置して現在は外国語学部を含めた5学部1学群と大学院からなる学生数6000名強の総合大学になっています。

グローバル教育から始まった本学ですが、昨今は地域貢献の側面も注目されるようになりました。その中でも地域をフィールドにしたPBLを展開していることが教育の特色と言えます。年間を通じた継続的な地域におけるプロジェクト活動を行っているチームは80以上あり、例年700~800名の学生が参加しています。正に、北九州市自体がキャンパスと言えます。

2013年8月9日に出された「インターンシップの普及及び質的充実のための推進方策について意見のとりまとめ」では、「多様な形態のインターンシップや、インターンシップと同等の効果を発揮する多様な取組の推進」が示されており、本学でも展開しているような地域での実践活動もインターンシップの一つの形として考えられるようになってきました。学会大会では、このような多様なインターンシップの成果等について体感していただくようなプログラムを作って参りたいと考えております。最後に、北九州は見どころ満載、食べもの満点です。関門海峡、門司港レトロ、旦過市場、小倉城、環境モデル都市関連施設、工場夜景、焼うどん、じんだ煮、合馬たけのこ、関門だこ、ぼたもち等々、お楽しみいただける点もたくさんございます。皆様にご満足いただける大会にできるようにスタッフ一同努力して参ります。ぜひお越しください。

(第15回大会実行委員長 眞鍋 和博・北九州市立大学)

理事会報告

2012年度第5回理事会(6/30@北海道武蔵女子短期大学)

(1)入退会申請について

入退会の申請者について、すべて承認された。なお、今回入会した2名からすでに第14回大会発表申込があり、これを受理することとした。

(2)第14回大会について

高橋第14回大会実行委員長より大会開催準備の進捗状況について報告がなされた。

(3)理事選挙及び会長選挙について

古閑選挙管理委員長より、会員による理事選挙により新理事候補20名が決定し、全員からの応諾があったこと、新理事候補による会長選挙により吉本 圭一会員が新会長候補に選出されたとの報告がなされた。

(4)年報編集委員会報告

稲永委員長より、年報16号への8件の応募のうち4件に修正を依頼し、6/28締め切り時点ですべて提出があり、今後、再査読を行い、7月の委員会において最終決

定するとの報告がなされた。

(5) 学会名 (英文) の変更について

吉本会長から資料に基づき、学会の英語名称を Japan Society of Internship から Japan Society of Internship and Work Integrated Learning に変更することについて提案がなされた。協議の結果、本件について総会へ諮ることが承認された。

(6) 名誉会員制度の創設について

吉本会長及び亀野事務局長から資料に基づき、名誉会員制度を創設し、学会活動への功績を理由に榎本 淳子会員を名誉会員としたいとの提案がなされた。協議の結果、本件についていずれも総会へ諮ることが承認された。

(7) 各委員会・ワーキンググループ報告、各支部報告

各委員長、支部長等より説明があった(詳細は本NEWS LETTERの記事を参照願います)

2013 年度第 1 回理事会 (8/24@追手門学院大学大阪梅田サテライト)

(1) 入退会申請について

入退会の申請者について、すべて承認された。

(2) 2012 年度事業報告 (案) について

亀野事務局長より、資料に基づき説明があり、原案どおり了承された。

(3) 2012 年度決算 (案) 及び監査報告について

事務局長より、資料に基づき説明があり、原案どおり了承された。

(4) 2013 年度事業計画 (案) 及び 2013 年度予算 (案) について

事務局長より、資料に基づき説明があり、原案どおり了承された。

(5) 高良記念研究助成について

眞鍋高良記念研究助成審査委員長より資料に基づき、3名の応募者の中から2名を助成対象者としてほしいとの提案があり、原案どおり決定した。また、交通事故のため研究期間の延長申し出があった 2012 年度助成者である会員への対応について提案があり、発表の1年間延長を認めることで合意した。

(6) 第 14 回全国大会について

高橋第 14 回大会実行委員長より大会開催準備の進捗状況について報告があった。

(7) 年報編集委員会報告

稲永委員長より、7/21 の委員会において、年報 16 号については、再審査 4 件のうち 3 件を「修正を条件に研究ノートとして採択する」ことを決定したこと、質確保の観点から発刊が遅れ大会には間に合わないとの説明があった。

(8) 組織運営 WG 報告

横山(皓)委員長代理より資料に基づき、組織運営 WG の最終答申の報告があった。これをもとに意見交換がなされ、協議の結果、現理事会としては報告を次期体制に申し送り、新体制において、選挙規程等について審議を

継続することとなった。

(9) 会則の改正について

事務局長より、資料に基づき、前回理事会において了承された①英語名称の変更、②名誉会員制度の創設に加え、③事務局の変更に伴う付則の変更についての提案があり、原案どおり了承され、総会に諮ることとなった。

2013 年度第 2 回理事会 (9/7@北海道武蔵女子短期大学)

(1) 入退会申請について

入退会の申請者について、すべて承認された。

(2) 総会議題について

亀野事務局長より、総会の議題についての提案があり、原案どおり了承された。

(3) 学会シンボルマークについて

江藤広報委員会副委員長より次回の理事会に学会シンボルマークについて提案することについて報告があった。

(4) 次期大会校について

吉本会長より、現在 4 支部でのローテーションとなっていることから次回は九州支部で開催したいとの報告があり、了承された。

(5) 事務局の移転について

事務局長より、事務局長の交代にともない 10 月以降に事務局を鳥取大学に移転する予定であるとの報告があった。

(事務局)

2013 年度総会報告

2013 年度総会が、2013 年 9 月 7 日 (土) 北海道武蔵女子短期大学において開催され、以下の報告・審議が行われました。

(1) 2012 年度 事業報告

亀野事務局長より資料に基づき説明があり、承認された。

(2) 2012 年度 決算報告および 2012 年度 監査報告

事務局長より資料に基づき説明があった。その後、監事欠席のため事務局長が代理で監査報告を行い承認された ((1)・(2)の詳細は「2012 年度事業報告及び決算報告」を参照)。

(3) 会則の改正について

吉本会長より会則の改正 (英語名称の変更、名誉会員制度の創設、事務局の変更) について説明があり、承認された。その後、榎本 淳子会員を名誉会員とすることが諮られ承認された(詳細は「会則改正について」を参照)。

(4) 2013-2014 年度 役員選出について

古閑選挙管理委員長より理事選挙及び会長選挙の結果が報告された。この結果に基づき、新理事 20 名及び新会長として吉本 圭一会員が承認された。その後、会長指名の理事、副会長、常任理事、事務局長、顧問、名誉会長についての報告があった。さらに、監事については、伊

藤 文男会員及び沢田 隆会員が推薦され、承認された(詳細は「2013-2014 年度役員について」を参照)。

(5) 2013-2014 年度 委員会組織について

吉本新会長より追加資料に基づき報告があった(詳細は「2013-2014 年度委員会構成について」を参照)。

(6) 2013 年度 事業計画

事務局長より資料に基づき、事業の概要について説明があり、承認された。

(7) 2013 年度予算について

事務局長より資料に基づき、一般会計予算案、特別会計予算案について説明があり、承認された((6)・(7)の詳細は「2013 年度事業計画及び予算」を参照)。

(8) 高良記念研究助成について

眞鍋高良記念研究助成審査委員長より資料に基づき、助成採択の経緯が報告された。助成対象者2名が承認され、授与式が行われた(詳細は「2013 年度(第7回)高良記念研究助成対象者決定」を参照)。

(9) 第15回大会について

新会長より、次回の全国大会を九州支部内の大学で検討中であり、決定次第 NEWS LETTER などで広報する旨の説明があり、承認された(詳細は「第15回大会を開催するにあたって」のとおり)。

(事務局)

2012 年度事業報告及び決算報告

「2013 年度総会報告」のとおり、2012 年度事業報告及び決算報告について、総会にて下記のとおり承認されました。

1. 2012 年度事業期間

- ・2012 年7月1日～2013 年6月30日

2. 事業の概要

- ・2012 年9月8～9日 第13回大会開催(会場:玉川大学、参加者約100名)
- ・2012 年11月 Newsletter No.1 発行
- ・2012 年11月 『インターンシップ研究年報』15号発行
- ・2013 年5月 Newsletter No.2 発行

3. 総会

- ・2012 年9月8日(玉川大学)

4. 理事会

- ・第1回理事会 2012 年8月25日(キャンパスプラザ京都)
- ・第2回理事会 2012 年9月8日(玉川大学)
- ・第3回理事会 2012 年11月17日(九州大学)
- ・第4回理事会 2013 年3月24日(目白大学)
- ・第5回理事会 2013 年6月30日(北海道武蔵女子短期大学)

5. 各支部活動

(1)北海道支部

- ・2013 年3月8日 第6回研究会(札幌国際大学経済

センターキャンパス)

- ・2013 年6月30日 第7回研究会(北海道武蔵女子短期大学)

(2)関東支部

- ・2012 年12月1日 第4回研究会(中央大学駿河台記念館)
- ・2013 年3月24日 第5回研究会(目白大学)
- ・2013 年6月22日 第6回研究会(文京学院大学本郷キャンパス)

(3)関西支部

- ・2012 年8月23日 第7回研究会(大学コンソーシアム大阪)

(4)九州支部

- ・2012 年11月16日 第10回研究会(久留米大学福岡サテライト)

6. セミナーの開催

- ・2012 年12月23日(筑波大学東京キャンパス)「日々実践に基づいた研究企画と論文作成に向けて」

7. 2013～14 年度理事選挙及び会長選挙の実施

8. その他

- (1)「2012 年度高良記念研究助成」実施

(2)規程の制定

- ・『インターンシップ研究年報』第16号研究論文投稿規程の制定

(3)広報の充実

- ・メールマガジンの発行
- ・「会員・大学のキャリア関連業績 Web ページ」の創設

(4)新たな表彰制度の創設についての検討

- ・榎本記念賞 WG における検討

(5)組織運営のあり方についての検討

- ・組織運営 WG における検討

(6)企画研究の実施

- ・「インターンシップなど産学連携教育を通じた学校から社会への移行システムに関する研究」(科学研究費補助金(B)、2010～12年度、研究代表者:亀野 淳)
- ・「大学から職業への移行を促すインターンシップを軸としたキャリア教育研究」(科学研究費補助金(B)、2011～13年度、研究代表者:椿 明美)

(7)会員名簿の作成

(8)学会後援・協賛事業等 4件

- ・特定非営利活動法人日本インターンシップ推進協会「平成24年度インターンシップ成果発表会」に協賛(2012 年12月14日日本大学生産工学部津田沼キャンパス)
- ・公益社団法人東京都専修学校各種学校協会「第19回専門学校教育研究会」に後援(2013 年3月4日 アルカディア市ヶ谷私学会館)
- ・九州大学国際セミナー「高等教育システムの機能的分化と質保証—非大学型アプローチ」に後援(2013 年3月9～10日 九州大学及びホテルレガロ福岡)
- ・短期大学コンソーシアム九州「大学間連携共同教育推進事業」に係る協定締結

(事務局)

2012(平成24)年度 日本インターンシップ学会 収支計算書
(2012年7月1日～2013年6月30日)

【一般会計】

(単位:円)

支出の部	2012年度予算(a)	2012年度決算(b)	予実差異(b-a)	収入の部	2012年度予算(a)	2012年度決算(b)	予実差異(b-a)
事業費	1,450,000	1,360,755	-89,245	会費収入	2,060,000	2,399,820	339,820
(北海道支部活動費)	100,000	100,000	0	(個人会員)	1,230,000	1,470,000	240,000
(関東支部活動費)	100,000	100,000	0	(学生会員)	70,000	70,000	0
(関西支部活動費)	100,000	100,000	0	(法人・団体会員)	760,000	859,820	99,820
(九州支部活動費)	100,000	100,000	0	事業収入	7,000	0	-7,000
(大会開催費)	300,000	300,000	0	(研究会収入)	0	0	0
(年報作成費)	450,000	426,195	-23,805	(書籍・年報等販売収入)	7,000	0	-7,000
(記念事業費)	0	0	0	雑収入	221,300	324,092	102,792
(役員選挙費)	100,000	103,310	3,310	(受取利息)	300	217	-83
(名簿作成費)	200,000	131,250	-68,750	(その他の収入)	0	103,000	103,000
事務管理費	750,000	438,857	-311,143	(大会開催費余剰金)	0	0	0
(通信費)	150,000	120,322	-29,678	(北海道支部余剰金)	78,000	78,141	141
(HP管理費)	100,000	37,800	-62,200	(関東支部余剰金)	0	382	382
(その他運営費)	500,000	280,735	-219,265	(関西支部余剰金)	100,000	100,000	0
積立金(特別会計へ)	500,000	500,000	0	(九州支部余剰金)	43,000	42,352	-648
予備費	4,656,920	0	-4,656,920				
次年度繰越金		5,492,920	5,492,920	前年度繰越金	5,068,620	5,068,620	0
合計	7,356,920	7,792,532	435,612	合計	7,356,920	7,792,532	435,612

(当該年度事業のみ)	2,200,000	1,799,612	-400,388	(当該年度事業のみ)	2,288,300	2,723,912	435,612
------------	-----------	-----------	----------	------------	-----------	-----------	---------

【特別会計(高良記念研究助成)】

(単位:円)

支出の部	2012年度予算(a)	2012年度決算(b)	予実差異(b-a)	収入の部	2012年度予算(a)	2012年度決算(b)	予実差異(b-a)
2012年度研究助成金(2件採択)	200,000	200,000	0	受取利息	100	44	-56
振込手数料	1,000	944	-56	余剰金	0	0	0
予備費	647,593		-647,593	積立金(一般会計より)	500,000	500,000	0
次年度繰越金		647,593	647,593	前年度繰越金	348,493	348,493	0
合計	848,593	848,537	-56	合計	848,593	848,537	-56

2012(平成24)年度 貸借対照表兼財産目録(2013.6.30現在)

資産の部		負債・純資産の部	
流動資産	6,140,513	(負債の部)	
手持現金	10,444	流動負債	0
預金	6,130,069	固定負債	0
北洋銀行(一般会計)	164,395	(純資産の部)	
北洋銀行(特別会計)	647,593	剰余金	6,140,513
郵便振替口座	5,318,081	(一般会計繰越金)	5,492,920
固定資産	0	(特別会計繰越金)	647,593
資産合計	6,140,513	負債・純資産合計	6,140,513

(注) 本来は貸借対照表と財産目録を個別作成する必要があるが、
財産が僅少のため当面本表にて対応することとする。

2013 年度事業計画及び予算

「2013 年度総会報告」のとおり、2013 年度事業計画ならびに予算について、総会にて下記のとおり承認されました。

2013 年度 年間事業計画

1. 2013 年度事業期間

2013 年 7 月 1 日～2014 年 6 月 30 日

2. 事業の概要

- (1) 第 14 回大会の開催 (会場: 北海道武蔵女子短期大学)
2013 年 9 月 7 日 (土)～8 日 (日)
- (2) 研究会の開催 (各支部年 2～3 回程度)
- (3) 『インターンシップ研究年報』16 号の刊行

(4) News Letter の発行 (年2回)

(8) その他

(5) 「2013年度高良記念研究助成」実施

(事務局)

(6) 新たな表彰制度の創設

(7) 論文作成に向けてのワークショップの開催

2013(平成25)年度 日本インターンシップ学会 一般会計 予算

一般会計【収入の部】

(単位:円)

大科目	中科目	2013年度予算額	前年度予算額	2012年度実績	2011年度実績	2010年度実績	予算増減
会費収入	小計	2,185,000	2,060,000	2,399,820	1,039,820	3,894,820	125,000
	個人会員(10,000円)	1,300,000	1,230,000	1,470,000	740,000	2,280,000	70,000
	学生会員(5,000円)	65,000	70,000	70,000	40,000	115,000	-5,000
	法人・団体会員(20,000円)	820,000	760,000	859,820	259,820	1,499,820	60,000
事業収入	小計	0	7,000	0	0	16,000	-7,000
	研究会収入	0	0	0	0	0	0
	書籍・年報等販売収入	0	7,000	0	0	16,000	-7,000
雑収入	小計	178,300	221,300	324,092	121,267	545	-43,000
	受取利息	300	300	217	303	545	0
	その他の収入	0	0	103,000	0	0	0
	大会開催費余剰金	0	0	0	0	0	0
	北海道支部余剰金	44,000	78,000	78,141	19,826	0	-34,000
	関東支部余剰金	2,000	0	382	11,085	0	2,000
	関西支部余剰金	47,000	100,000	100,000	17,522	0	-53,000
	九州支部余剰金	85,000	43,000	42,352	72,531	0	42,000
当期収入合計(A)		2,363,300	2,288,300	2,723,912	1,161,087	3,911,365	75,000
前期繰越収支差額		5,492,920	5,068,620	5,068,620	5,539,605	3,203,070	424,300
収入合計(B)		7,856,220	7,356,920	7,792,532	6,700,692	7,114,435	499,300

一般会計【支出の部】

大科目	中科目	2013年度予算額	前年度予算額	2012年度実績	2011年度実績	2010年度実績	予算増減
事業費	小計	1,200,000	1,450,000	1,360,755	1,271,788	1,237,765	-250,000
	北海道支部活動費	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	0
	関東支部活動費	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	0
	関西支部活動費	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	0
	九州支部活動費	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	0
	大会開催費	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	0
	年報作成費	500,000	450,000	426,195	277,620	364,665	50,000
	記念事業費	0	0	0	294,168	0	0
	役員選挙費	0	100,000	103,310	0	22,050	-100,000
	名簿作成費	0	200,000	131,250	0	151,050	-200,000
事務管理費	小計	1,600,000	750,000	438,857	360,284	337,065	850,000
	通信費(郵送料等)	200,000	150,000	120,322	83,654	120,543	50,000
	HP管理費	100,000	100,000	37,800	38,115	0	0
	その他運営費	1,300,000	500,000	280,735	238,515	216,522	800,000
当期支出小計		2,800,000	2,200,000	1,799,612	1,632,072	1,574,830	600,000
特別会計へ	積立金	100,000	500,000	500,000	0	0	-400,000
予備費	予備費	4,956,220	4,656,920	0	0	0	299,300
当期支出合計(C)		7,856,220	7,356,920	1,799,612	1,632,072	1,574,830	499,300
当期収支差額(A)-(C)		-5,492,920	-5,068,620	924,300	-470,985	2,336,535	-424,300
次期繰越収支差額(B)-(C)		0	0	5,492,920	5,068,620	5,539,605	0

2013(平成25)年度 日本インターンシップ学会 特別会計 予算

特別会計【収入の部】

(単位:円)

大科目	中科目	2013年度予算額	前年度予算額	2012年度実績	2011年度実績	予算増減
寄付金		0	0	0	0	0
積立金	小計	100,000	500,000	500,000	0	-400,000
	一般会計より	100,000	500,000	500,000	0	-400,000
雑収入	小計	50	100	44	76	-50
	受取利息	50	100	44	76	-50
	その他の収入	0	0	0	0	0
当期収入合計(A)		100,050	500,100	500,044	76	-400,050
前期繰越収支差額		647,593	348,493	348,493	549,361	299,100
収入合計(B)		747,643	848,593	848,537	549,437	-100,950

特別会計【支出の部】

大科目	中科目	2013年度予算額	前年度予算額	2012年度実績	2011年度実績	予算増減
高良記念研究助成金		200,000	200,000	200,000	200,000	0
事務管理費	小計	1,000	1,000	944	944	0
	振込手数料	1,000	1,000	944	944	0
	その他	0	0	0	0	0
予備費	予備費	546,643	647,593	0	0	-100,950
当期支出合計(C)		747,643	848,593	200,944	200,944	-100,950
当期収支差額(A)-(C)		-647,593	-348,493	299,100	-200,868	-299,100
次期繰越収支差額(B)-(C)		0	0	647,593	348,493	0

会則改正について

「2013年度総会報告」のとおり、総会にて下記のとおり会則が改正されました。

(旧)
(名称) 第1条 本会は日本インターンシップ学会 (<u>The Japan Society of Internship</u>) と称する。 学会のインターンシップの定義は「学生等が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」と幅広くとらえ、学校と企業等との連携により行われる形態を基本とする。
(付則) 1. (略) 2. 本会の事務局は、以下に置く。 (2009.10.10～) 〒060-0817 札幌市北区北17条西8丁目 北海道大学高等教育推進機構高等教育研究部キャリア教育支援室内

(新)
(名称) 第1条 本会は日本インターンシップ学会 (<u>The Japan Society of Internship and Work Integrated Learning</u>) と称する。 学会のインターンシップの定義は「学生等が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」と幅広くとらえ、学校と企業等との連

携により行われる形態を基本とする。

(名誉会員)

第15条の2 理事会の推薦により、総会の決議をもって本会に名誉会員を置くことができる。
名誉会員は特に本会に功労があった会員の中からこれを選ぶ。

(付則)

1. (略)
2. 本会の事務局は、以下に置く。

(2013.9.7～)

〒680-8550 鳥取市湖山町南4丁目101
鳥取大学大学教育支援機構キャリアセンター内

(事務局)

年報編集委員会報告

年報第16号について

年報第16号の発刊が大幅に遅れており、非常に申し訳なく思っております。現状では、編集の最終段階を迎えています。今回は投稿8本のうち、委員会で慎重に検討しました結果、研究論文として3本(いずれも研究ノート)を採択しました。研究論文とは別に、第16号から投稿を募集しました資料ですが、今号は1本を掲載いたします。お手元に届くまでもうしばらくお待ちいただきますよう、お願い申し上げます。

年報第 17 号への投稿のお願い

並行して、年報第 17 号への投稿をお待ちいたしております。前号から、従来の研究論文（論文、研究ノート）に加え、学会員の実践事例、文献、調査概要報告などの情報交換の場として「資料の部」でも投稿を募集しております。投稿の際は、研究論文への投稿か資料への投稿かを明記の上、締切厳守で投稿下さい。締切は 2014 年 1 月 20 日(月)です。

なお、年報第 17 号の研究論文等投稿規程は、第 16 号巻末および学会ウェブサイトに掲載いたしております。研究論文、資料ともに、投稿規程を守っていない場合には査読・掲載の対象から外すことがありますので、投稿規程をしっかりと守って原稿を作成の上、投稿してください。

(年報編集委員会委員長 稲永 由紀)

広報委員会報告

学会シンボルマークの変更

このたびの学会英語名称変更に伴い、学会シンボルマークの英語表記が変更されました。今回の NEWS LETTER から新しい学会シンボルマークを使用しております。

それに伴い、学会シンボルマークの使用規程として、「原則として、日本インターンシップ学会主催行事ならびに協賛・後援行事の使用に限る。シンボルマークの著作権管理は広報委員会が担当する。」ことになりました。

公募・研究助成関連情報等のウェブ掲載について

本学会に寄せられました教員公募や研究助成に関する情報のウェブサイトへの掲載およびメルマガによる配信を開始しました。会員の皆様に有益な情報を、今後も積極的に発信していきたいと考えております。最終的な掲載の可否は広報委員会にて検討される予定ですが、これら関連情報の発信を希望される方は、広報委員会宛にお問い合わせ下さい。

メルマガ配信先アドレスの登録について

学会ウェブサイトにて新着情報が掲載されるたびに現在、メルマガで会員の皆様にご案内をしております。新入会員の皆様、また法人会員の皆様で個人アドレスに配信をご希望の場合は、送信先アドレスを記載の上、広報委員会 (jsi.prc@gmail.com) までご連絡ください。

また、今年度から支部研究会の案内を従来のウェブサイト掲載、会員宛のメルマガ配信に加え、他の高等教育機関等のメルマガへの投稿を通じて発信することにしました。支部研究会の活性化を情報発信を通じてサポートとしていきたいと考えています。

(広報委員会委員長 石田 宏之)

2013 年度 (第 7 回) 高良記念研究助成 対象者決定

本学会では、インターンシップに係る研究や実践活動の発展・普及のため、また会員相互の研究交流の促進を図ることを目的として、優れた研究課題へ研究助成を行っています。2013 年度 (第 7 回) 研究助成には、3 件の応募があり、審査委員会の厳正な審査により、次の 2 名に対し研究助成を行うことが理事会において決定しました。

- ・川端 由美子会員 (新潟大学 教育・学生支援機構 キャリアセンター)
「大学生のインターンシップに対する認識-1 年生を対象としたアンケート調査から」
助成額 10 万円、単独研究
- ・松尾 哲也会員 (愛知淑徳大学 キャリアセンター 助教)
「インターンシップと社会人基礎力に関する研究」
助成額 10 万円、単独研究

研究期間は 2014 年 9 月末までの 1 年間で、2014 年の大会において研究成果を発表することになります。また、その 1 ヶ月後までに「研究終了報告書」と「研究経費使用報告書」を学会事務局に提出いただきます。

また、2012 年度研究助成を受けた 2 名のうち 1 名の研究成果が 2013 年 9 月の第 14 回大会 (北海道武蔵短期大学) において発表されました。

- ・鈴木 恵会員 (横浜創英大学看護学部・助教)

「看護におけるインターンシップの現状と課題」

なお、2014 年度 (第 8 回) の研究助成応募期間は来年 4 月～6 月を予定しておりますが、詳細は次号の NEWS LETTER にてご連絡します。

(高良記念研究助成審査委員長 眞鍋 和博)

企画研究 WG 報告

2013 年度における本 WG の大きな任務は、①日々の実践を学術研究に結びつけていくための方策の検討、②本学会の国際的な対応の 2 点です。

前者は、2012 年 12 月に年報編集委員会と共催により東京で実施したセミナー『日々の実践に基づいた研究企画と論文作成に向けて』のような試みを他の地域でも実施していこうというものです。現時点では具体的な時期、場所は決定していませんが、今年度中には少なくとも 1 回の開催を予定しています。詳細が決定しましたら学会ウェブサイト等でご連絡いたします。

後者は、インターンシップや WIL (Work Integrated Learnig : 職業統合的学習) の国際的組織である WACE (the World Association for Cooperative & Work-Integrated Education) の大会が 2015 年夏に日本で開催されることとなりました。海外の実践、研究を学ぶことは、今後の本学会、学会員の発展・向上に資することから、本学会としても何らかの協力を

行い、今後の本学会としての国際化に対応していこうと考えています。

(企画研究 WG 委員長 亀野 淳)

楨本記念賞 WG 報告

楨本記念賞に相応しい研究・成果事例 募集

今年度から楨本記念 WG 委員長を拝命しました。よろしくお願ひ致します。本 WG は、大阪経済大学の楨本名誉教授が理想とされた秀逸なインターンシップの事例を探し出そうという構想が話し合われたのが鳥取大学で開催された第 12 回大会直前の理事会でした。その後、初代の加藤委員長のもとで活動が続けられてきましたが、相応しい事例が徐々に集積されているものの、事例は未だ少ない状況です。ここで改めて趣旨・方針をお示し致します。

<趣旨>

産学連携教育の柱としてのインターンシップにおいて、優れた取組みがどのように行なわれ、人材が育成されているか、情報収集を行ない、総合的に評価し、学会員に還元する

<事例報告の視点>

- ・学生がどのように育成されたか
- ・育成された（育てた）要因や工夫
- ・その取組みから、なにが生まれ、また派生しているか。

会員諸氏におかれましては、各支部の委員ないし事務局宛の候補に該当する事例があれば、ご連絡をお願い致します。

(楨本記念賞 WG 委員長 田中 宣秀)

2013-2014 年度役員について

2013 年度総会におきまして、2013-2014 学会年度役員が下記のとおり決まりました。

(五十音順、敬称略)

- 会長
吉本 圭一
- 副会長
安孫子 勇一、太田 和男、亀野 淳
- 常任理事
石田 宏之、稲永 由紀、江藤 智佐子、古閑 博美、田中 宣秀、椿 明美、長尾 博暢、眞鍋 和博
- 理事
安部 恵美子、牛山 佳菜代、岡本 信弘、折戸 晴雄、加藤 敏明、小林 直樹、高橋 秀幸、高橋 保雄、富田 宏治、松高 政、宮川 敬子、薬師丸 正二郎、横山 皓一、和田 佳子
- 監事
伊藤 文男、沢田 隆
- 顧問
天谷 正、金田 昌司、田村 紀雄、楨本 淳子
- 名誉会長
高良 和武

(事務局)

2013-2014 年度委員会構成について

2013-2014 年度役員選出を受けて、2013-2014 年度委員会等構成が下記のとおり決まりました。

(五十音順、敬称略)

- 事務局 (◎は事務局長、○は事務局長補佐)
○土肥 眞琴、◎長尾 博暢
- 年報編集委員会 (◎は委員長、○は副委員長)
◎稲永 由紀、牛山 佳菜代、○亀野 淳、見目 喜重、新谷 康浩、長尾 博暢、廣瀬 幸弘、福岡 哲朗、古田 克利
- 広報委員会 (◎は委員長、○は副委員長)
青野 友太郎、◎石田 宏之、○江藤 智佐子、岡本 信弘、○見目 喜重、古閑 博美、小林 純、椿 明美、土肥 眞琴
- 2013 年度高良記念研究助成審査委員会 (◎は委員長)
牛山 佳菜代、岸本 喜久雄、富田 宏治、◎眞鍋 和博、和田 佳子
- 企画研究ワーキンググループ (◎は委員長、○は副委員長)
○安孫子 勇一、稲永 由紀、折戸 晴雄、◎亀野 淳、小林 直樹、廣瀬 幸弘、松高 政、宮川 敬子、薬師丸 正二郎、吉本 圭一
- 楨本記念賞ワーキンググループ (◎は委員長、○は副委員長)
安孫子 勇一、岡本 信弘、太田 和男、加藤 敏明、◎田中 宣秀、富田 宏治、○眞鍋 和博、吉本 圭一、和田 佳子

(事務局)

支部活動報告

北海道支部

北海道支部 2012 年度第 2 回研究会を開催

2013 年 6 月 30 日(日)に 2012 年度 2 回目となる研究会を北海道武蔵女子短期大学にて開催いたしました。北海道支部会員や学会理事の方々を中心に 20 名の参加がありました。

今回は 9 月に開催する全国大会を意識しながら、開催テーマを「短期派遣型インターンシップの先を目指して」としました。全国大会のテーマ「体験の先へ行くインターンシップ」を考える上で、体験だけにとどまらないインターンシップを実践している企業の方 2 名をお招きし、その取組の内容や成果をご報告いただきました。

はじめに、さまざまな企業と連携してインターンシップを実施している事例として、田中 希久代氏(キャリアバンク株式会社)から「人材派遣業から見たインターンシップ」が報告されました。企業がインターンシップを行う際にはプログラムの検討や受入体制などで負担が大きいと言われる中、学生が主体となって企業に必要な情報を調査・発表するという人材派遣業ならではの発想の PBL 型プログラムに対

して、関心を示す参加者が多かったようです。続いて企業と大学が連携協定を結び実現した事例として中山 英朗氏（札幌通運株式会社）・長谷川 修会員（札幌国際大学）から「採用直結・長期インターンシップの受入と展望・課題」が報告されました。学業とインターンシップを無理なく長期的に実施する手法や、就職にも向けられたプログラム、企業の支援体制などに、フロアからも活発に質問が出されました。

第14回全国大会を支援しました

2013年9月7日（土）・8（日）に北海道武蔵女子短期大学にて開催された第14回全国大会にて実行委員長の高橋会員を中心に亀野支部長以下実行委員を組織して、大会運営を支援いたしました。会員が少ない北海道支部ですが、開催校の教職員・学生スタッフの皆様のご協力、また参加者の皆様のご支援を受けて滞りなく大会を実施することができました。関係の皆様には厚く御礼申し上げます。

（北海道支部事務局・広報委員 小林 純）

関東支部

関東支部では2012年度に3回の研究会を実施しました。引き続き2013年度には、2013年8月10日（土）に役員会・総会が開催され、①支部長として折戸新支部長が選出され、②関東支部の支部登録制を導入することが承認されました。③2013年度の活動方針については、基本的には、前年度の総会で決定した方針に沿って具体的な方針を提示することとなりました。年3回の研究会を基本に、支部会員よりテーマごとに部会活動の検討を行うことが検討されました。

第2期の目標テーマは『長期インターンシップ導入に向けての検討』とし、研究活動を通じて得られた成果を関係企業や団体・機関に知ってもらうことを第一義に考えています。2013年度及び2014年度の事業計画・日程案は以下のとおりです。

・2013年度事業日程案

12月7日（土）：基調講演（厚生労働省）、研究発表（夏期休暇を利用したインターンシップ経験学生の発表）

3月15日（土）：基調講演（観光庁）、研究発表（アカデミックを中心とした自由発表）

6月21日（土）：基調講演（文部科学省）、研究発表（産業界を中心とした事例発表）

・2014年度事業計画案

9月：基調講演（経済産業省）、シンポジウム（産・学・官界の方の登壇を予定）

12月：基調講演（総務省）、研究発表（夏期休暇を利用したインターンシップ経験学生の発表を予定）

6月：「長期インターンシップ導入へ向けての提案」（2年間の総括）を踏まえた研究会

なお、研究会での基調講演は登壇者の都合により変更になる場合がございます。2013年度第1回研究

会の基調講演は、厚生労働省から電気通信大学の奥浩昭氏に変更になりました。

（関東支部支部長 折戸 晴雄）

関西支部

関西支部第8回研究会を開催

関西支部は、2013年8月23日（金）、追手門学院大学の大阪梅田サテライトで、第8回研究会「インターンシップの現場から」を開催しました。支部の「インターンシップ教学の現場で活躍する教職員に資するアカデミックな知見、情報等の提供を活動の柱に据える」との活動方針の下、昨年に続き優れた実践事例を紹介しました。今回は、近畿大学経営学部と大学生協阪神事業連合（学生サポート事業）の報告のあと、出席者（大学関係者など25名）と活発な質疑応答が行われました。

このうち、近畿大学経営学部では、キャリアマネジメント学科を中心に、2年生の多くがインターンシップに参加していること（優秀者は3年生でアドバンストコースを履修可能）などが辻 隆久会員から報告されました。経営学部独自のアドバイザーが学生をサポートするなど、優れた支援体制にも感心しました。また、企業側からみたインターンシップの評価について、酒井 幸雄氏（帝人株式会社・人財部長）から貴重なご指摘を頂きました。

他方、大学生協は、ノウハウ蓄積の少ない国公立大学で、学生が社会人として自立することを促す「出発（たびだち）サポートプログラム」を実施しています。各大学の教育を補完する気付きの場を1年生から有料で体系的に提供するもので、体験学生の発表会を行うほか、プログラムを経験した先輩学生を活用するなど、様々な工夫を凝らしています。大学生協阪神事業連合の吉川 育弘部長が西日本の事例を、全国大学生協 学びと成長事業推進会議事務局の田原 靖之氏が全国の事例を報告しました。

また、松高 政会員（関西支部副支部長）の作成資料に基づき WACE（World Association for Cooperative Education）の19回大会（2015年8月18～22日に京都産業大学で開催予定）を紹介しました。

報告者・資料作成者を始め、素晴らしい会場の関係者、生協の紹介者（富田 宏治会員）、出席者の皆様に深く感謝いたします。

（関西支部支部長 安孫子 勇一）

九州支部

九州支部第11回研究会および会員総会

2013年11月16日（土）に、九州大学 箱崎キャンパス 文・教育・人環研究棟において、テーマ「インターンシップはどこに行くか？」と題した第11回研究大会を開催しました。

インターンシップは、大学教育として、就職支援として定着しつつある中で、文部科学省に設置された「体系的なキャリア教育・職業教育の推進に向け

たインターンシップの更なる充実に関する調査研究協力者会議」においてまとめられた「インターンシップの普及及び質的充実のための推進方策について」意見のとりまとめが、本年8月に公表されました。展開されている多様な形式のインターンシップを踏まえて「職業統合的学習(Work Integrated Learning)」を推進すべきであることが記されています。今回の研究会では、インターンシップが今後どのような方向に進むのかについてディスカッション及び事例発表がなされました。研究会でのパネル討論と事例発表内容は以下の通りです。

1) パネル討論

[インターンシップの今後の方向性について]

吉本 圭一×杉江 達也 (文部科学省高等教育局専門教育課専門官)

2) 事例発表① 山口大学

[他県出身者の地元インターンシップ支援]

平尾 元彦 (山口大学学生支援センター・就職支援部教授)

3) 事例発表② 北九州市立大学

[学生が主体となる PBL、サービスマーケティング]

見舘 好隆 (北九州市立大学キャリアセンター准教授)

研究会後に行われました九州支部総会では、2012年度の活動報告及び決算、2013年度の組織及び活動方針が承認されました。また次回の九州支部研究大会を2014年3月8日(土)に開催することが決定し、研究会の内容(予定)として、11回の研究会を振り返りつつ、今後の支部の方向性を探査・検討する研究会機会にすることで研究会の方向性も確認されました。

(九州支部・広報委員 岡本 信弘)

事務局からのお知らせ

事務局の移転について

上記「2013-2014年度委員会構成について」でご案内しましたとおり、事務局が北海道大学から鳥取大学に移りました。新しい事務局の連絡先は以下のとおりです。

〒680-8550 鳥取県鳥取市市湖山町南4丁目101
鳥取大学 大学教育支援機構
キャリアセンター内
電話 0857-31-5191 (事務局長直通)
FAX 0857-31-5559 (キャリアセンター共通)
E-mail: jsi-sec@js-internship.jp

※なお、お問い合わせはできる限りメールまたはFAXでお願いいたします。

新事務局長あいさつ

このたび事務局長を仰せつかった鳥取大学 長尾と申します。本稿執筆時点で事務局を引き継いでから2か月余りが経ちますが、学会事務局の仕事とい

うものは“正確・迅速”がごく当たり前要求されるだけでなく、仕事の範囲が非常に多岐にわたるということをしみじみ思い知らされ、歴代事務局の並々ならぬご努力にただただ頭の下がる思いです。自らの力量・性格を考えると、たいへんな役目をお引き受けしたというのが今なお正直な心境ではありますが、現会員のみなさまの日々の学会活動を親身にお支えしつつ、本学会のさらなる発展に向けて何が必要かを、事務局という立場から考え続けたいと思っております。どうかご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

会員情報変更の連絡について

所属・住所等が変わりましたら、速やかに事務局までお届けください。連絡先が不明になりますと、年報、NEWS LETTER、大会案内などの会員サービスが受けられなくなりますので、ご注意ください。

会費納入のお願い

2013年度会費納入を受け付けております。会費が未納の方は、今回お送りしました郵便振替用紙かゆうちょ銀行からの振込(ゆうちょ銀行に口座をお持ちの方は手数料が無料です)により、下記振込先までお納め下さいますようお願いいたします。銀行振込でも受け付けております。

会費納入先

【郵便振替】

口座番号 02750-1-108419

加入者名 日本インターンシップ学会

【ゆうちょ銀行】

店番 279 (当座) 108419

【銀行振込】

山陰合同銀行 湖山出張所 (普通)3742993

受取人名 日本インターンシップ学会

(電信振込の場合は、「ニホンインターンシップガクカイ」と入力下さい。)

(事務局)

日本インターンシップ学会 News Letter 2013 No.1

平成 25 年 12 月 3 日発行

発行 日本インターンシップ学会 会長 吉本 圭一

編集 日本インターンシップ学会広報委員会 委員長 石田 宏之

印刷 日本インターンシップ学会事務局 事務局長 長尾 博暢

〒680-8550 鳥取県鳥取市湖山町南 4 丁目 101

鳥取大学 大学教育支援機構 キャリアセンター内

E-mail jsi-sec@js-internship.jp

電話 0857-31-5191 (事務局長直通) FAX 0857-31-5559 (キャリアセンター共通)

Website <http://www.js-internship.jp/>